

今年3号目のココサイ心理になります。今回は、心理学科所属で、心理学に関連する教科である園芸療法を教えていらっしゃる吉崎先生にご登場いただきました。裏面は、「心理学実験」の紹介です。心理学実験は、認定心理士や公認心理師などの資格取得には必要な科目のようです。教科担当の赤城先生に記事を書いていただきました。心理学の魅力が詰まった記事となっていますので、ぜひ、ご覧ください！

吉崎俊一郎先生へのインタビュー

Q1 なぜ園芸療法の専門家になろうと思ったのですか？

A1 大学では社会学部の社会福祉専攻でしたが、大学2年の時に現場に出て初めて福祉の大変さを痛感しました。しかし、福祉の基盤は持ちながら何か人の役に立つ事はできないかと、模索していた時に園芸療法に出会いました。大学で学んできた事やそれまでの人生を振り返ってみると園芸療法とリンクする部分が多く、魅力と可能性を感じました。また、当時はまだ日本ではあまり知られていない分野でしたので、日本で是非広めたいとも思いました。

Q2 園芸療法の面白さ・魅力は何だと思えますか？

A2 一番の魅力は植物の生長と共に、対象者も成長し変化していく様がよく見てとれるところです。日本は特に四季が他の国々よりもハッキリしているため、それぞれの四季の楽しみ方と園芸療法が非常にマッチすると思います。また、他の補完代替医療ではできない「食する」という行為が人間の基本的欲求と5感をより刺激する点がとても素晴らしいとも感じております。仮に同一プログラムを同一人物に行っても対象者の感じ方や捉え方が変わるのも面白いですね。



Q3 「園芸療法士」の資格をとるための授業を紹介してください。

A3 「園芸療法ってなに？」と知らない学生には、是非、前期に履修できる<ガーデニング演習>をオススメしています。イネーブルガーデンや野菜畑、そしてビニールハウスが学びの場としてあり、体験を通じて学ぶことができる授業になっております。他学科や社会人の受講生も多いので交友関係も広がりやすいですし、野菜を種や苗から育て、自ら管理をし、最終的には自分の手で採取して食する事もできます。お待ちしております！

特集：心理学実験について

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」は1年生、2年生の秋学期で学びます。心理学研究における古典的な実験の追試を中心に試行的実験も含めて実施し、データの収集・集計・分析、考察を行ってレポートを作成する授業です。

ここでいう追試とは、過去に発表された論文や実験等に基づいて、同じ実験・分析を第三者が行うことを言います。

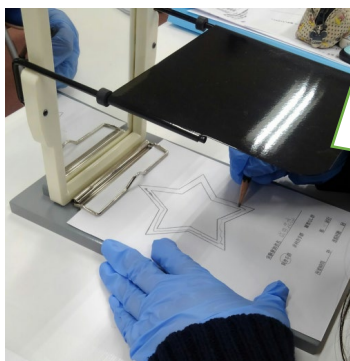
実験に関する一連の作業を通して、心理学実験研究の基本概念・方法、統計処理の基礎を学びながら、実際の実験実施に伴う注意点等について理解を深めます。

上位学年になったときに、実験の計画立案・実施ができるようになることも目指しており、実際に自分で計画した実験を実施し、卒業論文にまとめる学生もいます。

実験の授業では、学生が実験者、実験参加者双方の立場を体験します。現状、対面でなければできない実験もあり、コロナ禍でも、できるだけ学生同士の接触を避け、実験機器の消毒をし、換気に心がけながら行っています。学生からは、「実験は楽しいけれども、レポートを書くのは難しい」と言われますが、多くの学生は、何度も書いているうちに、書き方のコツをつかんでいきます。心理学実験Ⅱでは、「心理学統計法」で学んだ統計の知識を活用してレポートを作成します。

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」は「認定心理士」という資格を取るために必要な科目です。「認定心理士」は、公益社団法人日本心理学会が認定する心理学の資格で、4年制大学で心理学の標準的な基礎知識と基礎技能を修得していることを認定するものです。本学でも、決められた一定数の心理学関連科目の単位を修得し、申請すれば取得できます。この資格は、直ぐに職業に結びつくものではありませんが、心理学を体系的に学びたい人や、将来、心理学の専門職を目指す人には取得してほしい資格です。

また、「公認心理師」になるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められており、「公認心理師」になるための試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。



これは鏡映描写
(きょうえいびょうしゃ)といっ
て、鏡に映した星
形図形の線の間を
はみ出さないよう
になぞります。な
かなかストレスが
かかります。



これは、逆さメガネといいま
す。上下反転するものと左右
反転バージョンがあります。



秋学期オリエンテーションの様子です。遠隔授業
が長かったため、どの学年も久しぶりの対面とな
りました。翌日から授業が開始しました。

編集後記 今回のコクサイ心理は、学生さんが夏休み期間だったので橋本がまとめました。久しぶりの対面授業が始まりましたが学生さんのやる気を感じています。右のQRコードを読み取ると、脳波計を販売する会社のHPで、私の研究を紹介したページに行きます。よろしければ見てください。文責：橋本



<https://www.futek.co.jp/news/article.html?2021091001>